

令和元年度第1回 鳴門市教育振興計画審議会 会議概要

日時 令和元年10月8日（火） 15時00分～

場所 市教育委員会2階 会議室

出席者 委員13名、関係課・事務局職員7名

欠席者 委員1名

傍聴者 なし

概要

1. 開会

2. 教育長あいさつ

3. 審議会委員の自己紹介

4. 会長及び副会長の選出

会長に阪根健二委員（鳴門教育大学大学院教授）が、副会長に川端恵子委員（徳島文理大学准教授）が選任されました。

5. 審議会への諮問

市教育委員会から審議会に対して諮問を行いました。

6. 審議会の進め方について

今後の審議の進め方について事務局から説明を行いました。

7. 議事

（1）『鳴門市就学前教育・保育のあり方に関する基本方針』概要について

『鳴門市就学前教育・保育のあり方に関する基本方針』概要について、事務局から説明を行いました。

（2）鳴門市公立幼稚園を取り巻くこれまでの経緯と、現状と課題について

「鳴門市公立幼稚園を取り巻くこれまでの経緯と、現状と課題について」事務局から説明を行いました。

(会長)

公立幼稚園の就園率の高さが、他県にはない鳴門の一つの伝統であった。
鳴門の幼稚園の良さと現状と課題について、皆さんの自由な意見を伺いたい。

(委員)

39年間鳴門市の幼稚園教員としてお世話になったが、今の説明で先生方の現実を突きつけられた
思いだ。

何よりも鳴門市の子どもたちの幸せのためにどうしたらいいのかを念頭に置いて考えていきたい。

(委員)

私には幼稚園に上がる小さい子どもがいるが、保育園、こども園、幼稚園がある中で、どこに預け
ればよいかのわかりにくい。認定こども園や保育園の良さも聞いている。認定こども園の園児数が増
えている。幼稚園と保育園の違いも考えたい。

当たり前と思って幼稚園に進んでいたが、どんどん状況が変化しているようにも思う。

(委員)

地域に幼稚園があると、近くで通いやすいが、幼稚園の集約となった時に、遠くから通うようにな
った場合、仕事の通勤の都合のこともあり負担となるなどの意見が出てくる。それぞれの地域で大切
な伝統や歴史があり、無くなるのは寂しい思いがある。

しかし、あまり人数が少なくなってしまうと、友だちとの関係が固定化したり、難しい点も生じた
りするので、ある程度は人数を集約して確保することも必要だと考える。

(委員)

私自身にも孫が居るが、保育施設の選び方の話を聞いていると、候補となる施設が「預けやすいと
ころか」「どういう教育をしているか」を比較している。

再編した際には、遠くの公立より近くの私立へと流れる方もいる。それぞれの保護者の都合で選ぶ
ことになると思う。

再編した幼稚園のことを考えた時に、集約・再編して多くの先生が集まってくると、先生方が良い
影響を与え合って、教育力や教育の質はすごく上がるのではないかと期待している。

(委員)

幼稚園、保育園の先生方が減ってきている中で、今後幼稚園と近くにある私立保育園が統合しこど
も園を作るのはどうか。もし幼稚園が無くなる場合には、私立認定こども園化して、地域に密着した
形で残すこともできる。そのような話し合いもしていきたい。

(委員)

専任園長副園長会でも、再編や今後の幼稚園について話し合ってきた。伝統ある鳴門市の幼稚園をこのまま存続できるものならしたいが、園児数が減少する現実問題があり、再編は逃れられないという意見が、本市の幼稚園職員の総意である。

今後は、しっかりと現場の意見を聞いて、再編をしてほしい。ほとんどの幼稚園で定員を割っており、集団を形成するという点でも適正規模になるような再編が望ましいと思う。

本市の幼稚園の特徴でもある、教育要領を基盤としながら、地域に根ざした特色を生かした教育は残して、質の高い教育を存続させてほしい。本市の実践は県下だけでなく全国でも高い評価を受けているが、現状では、そのことを継続することも難しくなっている。再編をし、特色のある幼稚園再編をしてほしい。「子育て支援センター的な園」「特別支援教育の推進園」「人権教育推進園」「幼小中一貫教育推進園」「学園都市化構想推進園」「地域の文化財と連携した地域文化活動の推進園」のような特色ある幼稚園ができればいい。

教職員の資質向上の機会の確保をしていただきたい。

また、一時預かりは存続させていきたい。教育計画を立て質の高い教育をしている。待機児童が少ないのも、幼稚園が土曜預かりをしているからと自負して仕事をしている。今は臨時職員が一時預かり事業を担当しているが、できれば正規教員が担当できるようにしていただきたい。

職員組織に対しても、いびつな年齢構成が、多忙を極めている原因にもなっている。再編するに当たって、経験年数や実態に合ったバランスの良い組織づくりができるよう改善できたらと思う。特別支援の必要な子どもたちや保護者の多様なニーズに対応できるような、人員配置、事務員の配置についてもお願いしたい。

鳴門市の子どもたちの幸せのための再編をお願いしたい。

(会長)

現場からの意見が非常に貴重。今のご意見だと、今のままの小さい幼稚園ではどれも実現できないことだろう。教職員の年齢構成を改善するにも、小さい幼稚園ではまず難しい。やはりある程度の再編は必要。

しかし、今までの良いところを続けていくことも大事。現場の意見を尊重にして考えることが大切だと思う。

(委員)

子どもが減ってきている中で、再編は仕方ないにしても、どこを減らすかは難しい。遠くなくても、選択肢が増えて、特色を持った幼稚園とする再編なら良いのでは。

(委員)

市外から引っ越してきて、自身の子どもが近くの保育所に入ることができず困っていたが、私立幼稚園に3歳から入ることができた。しかし、4歳からは、当たり前のように公立幼稚園に移る人が多かった。当時も今も公立の需要は多かったのでは。

一時預かりなどでは先生方にはご負担をおかけしたが、保護者としては大変助かった。子どもたちの幸せという点では、つながるのではないかと思う。

(委員)

幼稚園の先生方の入れ替わりが激しすぎて、信頼関係を築いたと思ったらすぐに異動になってしまい、先生方との人間関係をつなげていくのが難しかった。臨時職員の割合の多さにもびっくりしたが、もっと安定的に関われるような体制を築ければ、より子どもたちのためになると思う。

(委員)

認定こども園等が増え、ダンスや英会話などを行っていると聞く。親が子どもにかける期待が変わってきているとも実感している。

毎日のことなので、家から近く、安心して預けられるところがいいと思うので、送り迎えなど、子どもや保護者の負担を減らせられるような施策を考えて欲しい。

(委員)

以前は保育所から幼稚園に上がり、幼稚園から小学校に入学してくる流れがほとんどだった。

しかし、最近では保育所(園)やこども園から小学校への入学も増えている。家庭の様子や考え方が多様化しており、みんなが同じでは対応できなくなっている。

ある幼稚園は、以前には子どもがあふれていたが、近くにこども園ができ、多彩な活動や小学校入学まで変わらずに通えるのが良いという保育ニーズがあり、こども園の方へ子どもが多く入園している。

幼稚園教職員の現在の多忙な状況を改善するためにも、適切な設置場所、規模、内容等を考えた再編を行う時期に来ていると感じている。

(副会長)

幼稚園が厳しい状況にあるということを痛感した。

以前は幼稚園に余裕があり、研修体制が充実し、幸せな時代があった。しかし、そのような鳴門の幼稚園の良さが、今の状態では若い先生方には伝わらない。また、小規模すぎて伝わらないことが大きな課題であると感じている。

しかし集約した場合に、保護者の送迎など、市民の全てが納得できるような幼稚園となるかは心配がある。鳴門は伝統として幼小連携に熱心であり、再編後は幼小の連携・接続など課題はたくさんあると考える。

(会長)

鳴門に限らず、過去の発想のまま、単なる再編をしたのでは通用しない。結局、子どもや保護者が離れ、つぶれていくだろう。選ばれなくなる。遠くとも、魅力ある幼稚園に子ども・保護者は集まる。現実として、距離以上に選ばれる鳴門の幼稚園にしていく必要がある。様々な課題がある。

若い人たちが振り向くような、特色でないと選ばれない。他縣市では、学校内にフリースクールを作った。成功するかしないかは別だが、思い切ったことすると大人たちが振り向いてくれる。新しい学校を建てるとか思い切ったことをする例もある。また、地域に1校ずつの小中一貫校を設置している所もある。

幼稚園にダンスがいいのか、英語がいいのかは別として、「鳴門の幼稚園はこれだ！」というような特色がいる。過去の鳴門は「未来を見る幼稚園」だった。

「Well being」幸福度、幸せという意味だが、子どもたちの幸せは何なのか、もっと選ばれるような、公と私の連携、どんな方向で、どんな形で、市民がいいなと思う再編をしていかなければならない。

自身の娘は、親の通勤の都合、先生のたくさんいる園、特色ある教育を行っている園などの選択肢で、私立幼稚園を選んでいる。自分の子どもの将来の幸福と幸せを視点にして考えている。この審議会も同じ視点で考えていくことが必要だと思う。

10月からの無償化のこの時期だから、鳴門の幼児教育を考えるにはタイムリーである。今後も遠慮のないご意見をいただきたい。

8. その他

第2回の審議会日程について

11月14日(木) 15:00～市教育委員会2階会議室で開催することを確認しました。

9. 閉会